

創刊号

令和元年
月 日

地域おこし協力隊
丸石あいみ

TEL: 0880-52-1148
西土佐江川崎2410-3

祝☆六月一日より鮎漁解禁！ 令和初鮎は如何に

6月より、いよいよ鮎漁が解禁。漁協では、それに備えて5月に各地点で稚鮎の放流も行われた。そんな鮎が気になるところだが・・・

鰻は好調 エビはゼロ

まずは、先発で始まっていた鰻とエビについて。鰻は、昨年より入荷が若干多く、注文にも追いついている状態である。鰻の注文は、夏に集中するため、このまま好調な釣果を期待したい。
エビは、4月時点での入荷はゼロで5月に入荷が増加。去年と同様に資源の減少が顕著に表れている。注文や問い合わせは多いが、対応できていない状態である。

ナマズが豊漁 なまず市場化

ナマズとスッポンについて。ナマズは、去年より驚きの二〇〇%多い状況。「鮎市場」は毎日入荷するナマズにより「ナマズ市場」と化している。スッポンは、例年通りより少し少ないか。

大型連休は鮎の塩焼き毎日完売

大型連休は、非常に好調で、連休のみの売り上げで100万円を超えた。鮎の塩焼きを求めらるお客様が多く、毎日完売！加工品をお土産に購入する方も



ナマズの白焼き

鮎解禁するが入らず

さて鮎であるが、6月前半の状況は、毎日1キロの入荷があるかないか。注文は続々とある状況で、全国のお客様が鮎を待ち望んでいる。
6月の解禁日は土曜日だった。解禁日の様子は、裏面にて。

多くいた。限定で、過剰なナマズを「ナマズの蒲焼」として販売し、好評。鰻の代替品としての役割を果たす日も近いかな。

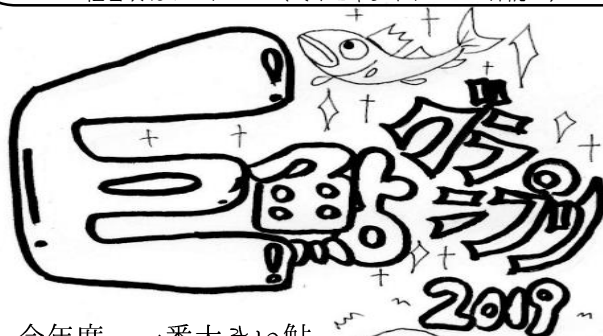
魚市場から あじせ

5月の入荷量

	今年度累計量	今年度5月量	昨年度5月量
鮎			
鰻	255.68	172.58	141.6
エビ	14.9	14.9	7.9
ナマズ	501.2	307.6	111.3
スッポン	86	53	81
ツガニ			

今年度から遊漁料が変更されています。

- 特別遊漁料網使用(1年券) 10000円
 - 普通遊漁料(1年券) 8000円
 - 特別遊漁料網使用(1日券) 5000円
 - 普通遊漁料(1日券) 2000円
 - 高齢者(75歳以上・網禁止) 3000円
 - 肢体不自由者 2000円
 - 浮き札(5枚セット・1口500円) 2500円
- *組合員は1つサービス(令和2年よりサービス分廃止)



今年度、一番大きい鮎を測定中・・・
過去最大は、
34.5cm
420g
(土佐昭和にて)





まるちゃんの
なが〜い
ひとゆきのこと。



掃力隊として鮎市場で働くまるちゃんです！
ここでは、日々のこととひとりでこちます…
よろしくお願ひします。

はい、鮎魚が解禁のかけです！
今年、雲行きが怪しい！とゆうな…四万十川…
私は、去年、投網に挑戦して、1尾獲り。
なかなか、難しいものだなと思ひます。
おんちゃんたら、1尾獲りです。い。
今年、2尾とれたら、上等!!
千尾の道も一尾から。

なんとかんだ！西工区に来たかなり経つ。
たこやりの人のおみやげとして乗るお船に
乗ります。
いつも、鮎市場で鮎を売ったり、商品開発したり
いろいろしております。いづれ、越前に
来て下さい♡流木もお待ちしてます。



ウマイ、これ。 Vol.1

たくさん来る観光客に向けて、四万十川をお土産に
できるような商品ができないか考えた。常温商品をつくろう。
鮎の塩焼き×ごはんできれいやすいいふりかけに。
そぼろの方がカッコいい！鮎の風味を生かした
「鮎そぼろ」ができたのです。



ほととは教たない 鮎即戦力談



～解禁日の談～

本流×全く釣れず一番は三島か。
本流の西部管轄には、ほとんど漁師はおらず。前夜に用井下の河原に張っている人も数名見られ、朝はヒロセで釣人がいた。
中半家沈下橋下にも数名。
東部の管轄になるが、川平橋、広井大橋に数名。昭和大橋と三島キャンプ場周辺には前夜からキャンプをしている団体がいた。四手崎にも数名。
浦越から大正は、竿を出すところがないくらい釣人がいたようだ。
しかし、釣果は芳しくない。西部管轄では釣れないよう、昼前に釣人はいなくなった。一番の釣果は三島で約40尾。
解禁日、鮎市場の入荷は、4・5キロのみ。非常に厳しい解禁日であった。
目黒川×朝から粘り一尾。
本流と同様に、非常に厳しい。
朝一番で川に入った釣人もいたが、3時間で1尾という状況で早々と引き上げ、昼過ぎにはほとんど釣人はおらず、粘っていた人や本流で釣れず移動してきた人もいた。しかし、全く釣れない状況。
目黒川の津賀上流あたりでは、10センチ程度の鮎が群れて、何個かの群

衆になつているところを目撃。
黒尊川×釣人も鮎もおらず。
昼過ぎに見かけた釣人は1名のみ。
目黒が釣れず、移動してきたようだ。しかし、望みが薄く、釣果は期待できそうにない。目黒同様に、小さな鮎の群れはちらほらと見かける。
藤の川×3支流の中でも一番厳しい。
目黒と黒尊よりも厳しい状況。名士でも1尾という状況。鮎の姿を見ないと聞く。河口付近の岩や石が遡上の邪魔になつている可能性もある。
鮎の成長を待てば良いのか、獲れない年なのか・・・
今は、鮎が成長しておらず、友釣にかかるとなるには1か月ほどかかると思ふ。
鮎の量は、昨年の3分の1以下だと感じていて、人が多く、昨年の鮎の大量遡上を経て、異常な少なさだと感じていて、川の水が低く、水が動いていないので、梅雨で川に変化を期待しつつ、鮎の成長を待ちたい。